

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和2年10月1日（木）

2 確認箇所

- (1) 3号機タービン建屋屋上
- (2) 地下水バイパス揚水受タンク（A）

3 確認項目

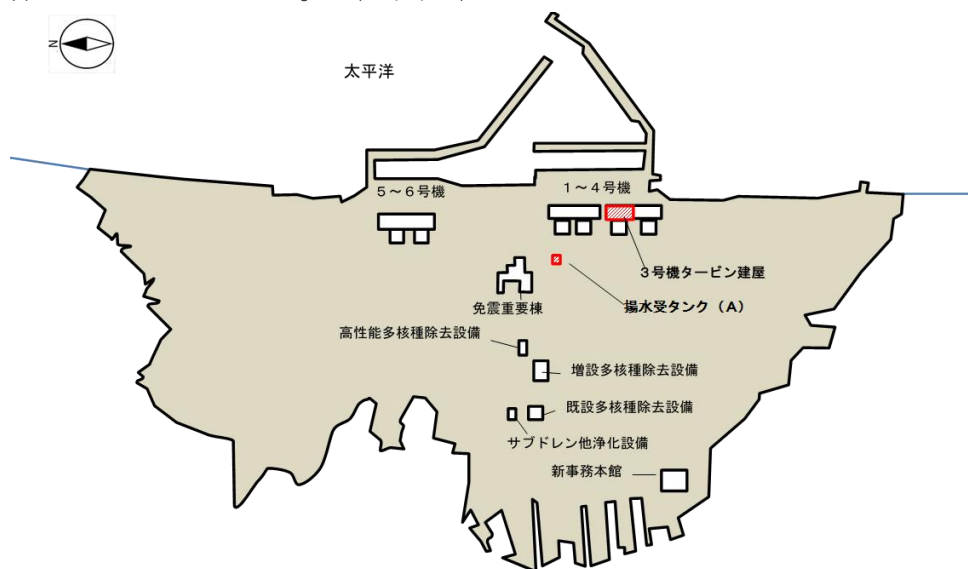
- (1) 3号機タービン建屋屋根雨水対策の進捗状況
- (2) 地下水バイパス揚水受タンク（A）オーバーフロー発生後の対応状況

4 確認結果の概要

(1) 3号機タービン建屋屋根雨水対策の進捗状況について

東京電力では、汚染水の発生量を抑制するため、3号機タービン建屋屋上の破損部等の雨水流入防止対策を実施している。前回（令和2年9月1日）までに破損部への雨水カバー設置を確認し、破損部以外については、簡易防水対策が進められていたことから、その後の進捗状況を確認した。（図1、写真1）

- ・簡易防水対策については、3号機タービン建屋の南東側（屋上入口付近）を除いて完了していた。（写真2）
- ・屋上に降った雨水中の放射性物質濃度を低減させるための浄化材（ゼオライト）を充填した装置（以下、「浄化材装置」という。）の据え付け作業が進められていた。（写真3）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
3号機タービン建屋外観
(南東側から撮影)



(写真2-1)
南東側(屋上入口付近)
(令和2年9月1日撮影)



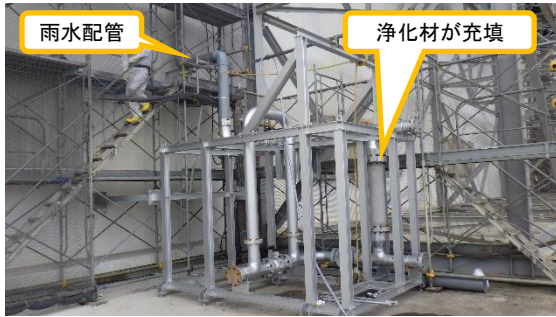
(写真2-2)
同左
(令和2年10月1日撮影)



(写真2-3)
北側の状況(北東側から撮影)



(写真3-1)
浄化材装置(設置)状況①
(据え付け作業実施中)



(写真3-2)

浄化材装置（設置）状況②

（今後、浄化後の雨水を排水する配管を設置予定）

(2) 地下水バイパス揚水受タンク（A）オーバーフロー発生後の対応状況について

令和2年9月30日に地下水バイパス揚水受タンク（A）^{※1}上部から地下水がオーバーフローする事案が発生^{※2}したことから、対応状況を確認した。（写真4）

- ・現地確認時、揚水受タンク（A）は稼働を停止しており、東京電力社員が施設の点検を行っていた。
- ・また、揚水受タンク（A）から一時貯留タンクへ至る移送管の弁が閉じられていた。

※1 地下水バイパスは汚染水の量を減らすため、原子炉建屋の山側で地下水を汲み上げ、放射性物質濃度が目標値を満たしていることを確認した後、海へ排水するための施設であり、揚水受タンクはA、B及びCの3系統からなる。

【地下水の流れ】揚水井戸 → 揚水受タンク → 一時貯留タンク → 海

※2 14時30分頃、東京電力社員が同タンクからのオーバーフローを確認し、揚水移送ポンプを起動、オーバーフローが停止した。漏洩量は約60L。



(写真4-1)

揚水受タンク（A）の外観



(写真4-2)
タンク上部のオーバーフロー箇所



(写真4-3)
移送管の状況
（「全閉」の表示がされていた。）

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。